った　この三日間から争議の統制権は全部同盟の手に移されて居たからだ。

資本側からは柴田清一　鈴木軍蔵の二名が個人の資格で出席した。

調停者の希望は両日に一年一度の祭礼を斯くのごとき全町を挙げての大争議の中に迎えることは遺憾に堪へぬ　依って何とか互譲して今日中に解決して欲しい　と云うのであった。

鈴木軍蔵氏は独下げは四歩み合四位で解決してもらいたい　と述べた。

調停者の手からは　争議幹事位は自ら引受けて呉れ　といふ熱心な希望に出られた人もあった

依って荒谷主事は個人の意見としてはあるが　労働側の譲歩し得べき最大限度を示す　資本家の反省を要求した。

此の日　鈴木両名は製陶業組合に図り　賛成を得ば正式の委任状を出すと約して退席した　然し同じく　また主人の意見を聞きに

物議する意志はない　と云ふ解答があって　有志の人々も呆気に取られながら　資本家の誠意を憤って解散した

斯くして　三回の交渉も悉く不調に了った　製陶業資本家は眞に解決を希望せぬのであるか　どうか　一大疑問がそこにある。

一石二鳥を撃つ
悪資本家の奸謀

瀧口の製陶業資本家　粒揃いである　東濃の製陶地を通じて　彼等は最も有力であり　活動的であり　資力に富んで居る　その背後には　有名なる製陶王国　森村組の力さへ働いてゐる

然し　その瀧口に於ても　眞に有力　強大な者は五六名である　彼等は瀧口製陶業組合の幹部として　瀧口の製陶産業を支配して居る

彼等は事実上　瀧口の一切の支配者である